

はじめに

学長 鈴木 多加史

本学は平成 15 年度に「体験に基づく発見的・自己開発的学習」というテーマで文部科学省の補助金を得て「特色ある教育」を実施して以来、毎年このテーマで補助金を得て「特色ある教育」を実施し、その成果を公表してきた。補助金の制度が変更されたことによって、このテーマで補助が得られるプロジェクトの数は減ったが、本学では引き続き「特色ある教育」を実施してきた。本報告書は平成 21 年度に実施した「特色ある教育」の記録で、「体験に基づく発見的・自己開発的学習」の報告書としては第 7 集に当たる。

追手門学院は明治 21 年に創立された大阪偕行社附属小学校から出発しており、平成 20 年に学院創立 120 周年を迎えた。現在では幼稚園、小学校、中・高等学校、大学・大学院を擁する総合学園に発展している。学院創立 120 周年を機に、創立以来の学院の教育理念を「独立自強・社会有為～自由と調和の人間教育をめざして～」に集約した。創立以来、自ら学び、実践して社会に貢献することを目指してきたことを明示したのである。「体験に基づく発見的・自己開発的学習」はまさにこの教育理念を実際の教育面において具体化したものであるといえよう。われわれはこういった学習を通じて、学生諸君が自ら大きく成長することを期待しているのである。

本年度の報告書では、それぞれ各教員が独自に実施してきた学習の成果を（Ⅰ）に示した。その成果を共有化し、さらなる向上を図るために広く各方面で読んでいただきたいし、また忌憚ないご意見をお寄せいただきたいと考えている。さらに（Ⅱ）では教育実践報告としてさまざまな形で活動を行った成果を示した。くわしい内容についてそれぞれの報告をお読みいただきたいが、報告はプロジェクトに参加した学生諸君主体で行っているものが多い。ここでも「体験に基づく」学習がなされたのである。

こういった地道な教育を積み重ねることで本学の教育の質の向上を図っているのであるが、それは一朝一夕に出来上がるものではない。今後も地道にこういった努力を続けていくことが必要であることは論を待たない。重ねて努力を続ける所存であるので、本報告書をお読みいただいて、広く各方面から本学における今後の教育・研究両面の展開に対してご厚意あるご叱正とご支援を賜ることを期待している。